

パウロの旅と書簡

経路と土地をたどり、書簡を年代の流れの中で読みます。年代や執筆地に関する異なる見解も示します。



紀元33／34年頃

ダマスコへの道・ダマスコ

サウロはダマスコへの道で復活したイエスに出会い、目が見えなくなり、使徒として召される。

場所

1. ダマスコへの道
2. ダマスコ

確度: 高い

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

紀元46～48年頃

アンティオキア・セレウキア・ピエリア・サラミス・パフォス

サウロは聖霊によって取り分けられ、キプロス島へ向かう。エリマは目が見えなくなり、セルギウス・パウルスは信じる。この時点でサウロ、またの名はパウロ。

場所

1. アンティオキア
2. セレウキア・ピエリア
3. サラミス
4. パフォス

確度: 高い

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

使徒言行録 13章1～12節

紀元46～48年頃

リストラ

パウロは生まれつき足の不自由な人を癒やす。一行はゼウスやヘルメスとして称えられ、パウロは石で打たれて死んだものとされるが、起き上がる。

場所

1. リストラ

確度: 高い

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

紀元46～48年頃

デルベ・リストラ・イコニオン・ピシディアのアンティオキア

パウロはデルベで多くの弟子を得る。帰路では諸教会を力づけ、長老たちを任命する。

場所

- 1. デルベ
- 2. リストラ
- 3. イコニオン
- 4. ピシディアのアンティオキア

確度: 高い

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

使徒言行録 14章20～23節

紀元48／49年頃

アンティオキア

パウロはおそらくガラテヤの信徒への手紙を書く（早期年代説／南ガラテヤ説）。

場所

- 1. アンティオキア

関連する書簡

ガラテヤの信徒への手紙

確度: 中程度

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

紀元49年頃

アンティオキア

パウロは会議の書簡を携えて戻り、教会は喜ぶ。

場所

1. アンティオキア

確度: 高い

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

使徒言行録 15章30～35節

紀元50年頃

サモトラケ・ネアポリス・フィリピ

トロアス→サモトラケ→ネアポリスと航海し、内陸のフィリピへ。リディアが信じ、女奴隷が解放される。パウロたちは打たれて投獄され、看守が救われ、教会が生まれる。

場所

1. サモトラケ
2. ネアポリス
3. フィリピ

確度: 高い

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

使徒言行録 16章11～40節; フィリピ 1章5節

紀元50～52年頃

コリント

パウロはアキラとプリスキラに出会い、会堂で論じ、1年6か月滞在する。

場所

1. コリント

関連する書簡

テサロニケの信徒への手紙一; テサロニケの信徒への手紙二

確度: 高い

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

使徒言行録 18章1～11節; 一テサロニケ 3章1～6節

紀元52／53年頃

アンティオキア・ガラテヤ地方・フリギア

第三回宣教旅行が始まり、パウロはガラテヤ地方とフリギアを巡って弟子たちを力づける。

場所

1. アンティオキア
2. ガラテヤ地方
3. フリギア

確度: 高い

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

使徒言行録 18章23節

紀元52／53～55／56年頃

エフェソ

パウロはティラノの講堂で2年間教える。宣教はアジア州全域に広まり、魔術の書物が焼かれる。

場所

1. エフェソ

確度: 高い

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

使徒言行録 19章1～20節; 20章31節

紀元55／56年頃

マケドニア・イリリコン

パウロはマケドニア人を励まし、献金を組織し、イリリコンに至るまで宣教する。

場所

1. マケドニア
2. イリリコン

関連する書簡

コリントの信徒への手紙二

確度: やや高い

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

使徒言行録 20章1～2節; ローマ 15章19節; ニコリント 8～9章

紀元56／57年頃

コリント・ケンクレアイ

パウロはギリシアに3か月滞在してローマの信徒への手紙を書き、陰謀のため帰路を変更する。

場所

1. コリント
2. ケンクレアイ

関連する書簡

ローマの信徒への手紙

確度: 高い

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

使徒言行録 20章2～3節; ローマ 15章22～29節; 16章1～2節

紀元57年頃

エルサレム

パウロは献金を携えて到着する。清めの儀式を行うが、神殿を汚したと訴えられ、捕らえられる。

場所

1. エルサレム

確度: 高い

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

使徒言行録 21章15～36節; ローマ 15章25～28節

紀元59／60年頃

カイサリア・マリティマ・シドン・ミラ・クニドス・良い港

パウロはユリウスの監督下でローマへ送られ、良い港から先への航海を警告する。

場所

1. カイサリア・マリティマ
2. シドン
3. ミラ
4. クニドス
5. 良い港

確度: 高い

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

使徒言行録 27章1～12節

紀元60年頃

マルタ・シラクサ・レギオン・プテオリ・アピイフォルム・トレス・タベルネ・ローマ

マルタ島からイタリアへ渡り、さらにアッピア街道でローマへ。兄弟たちがパウロを迎える。

場所

1. マルタ
2. シラクサ
3. レギオン
4. プテオリ
5. アピイフォルム
6. トレス・タベルネ
7. ローマ

確度: 高い

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

使徒言行録 28章11～15節

紀元60～62年頃

ローマ

使徒言行録は、パウロがローマで自宅軟禁下に置かれたまま、妨げられることなく宣教する場面で終わる。この時期に獄中書簡を置く伝統的な見方は再構成であり、使徒言行録自身の主張ではない。

場所

1. ローマ

確度: 高い

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

使徒言行録 28章16～31節

紀元60～62年頃

フィレモンへの手紙; コロサイの信徒への手紙

フィレモンへの手紙は、書き手がオネシモをフィレモンのもとへ送り返そうとしていると述べる。コロサイの信徒への手紙との共通する人名は両書の関連を示唆するが、同じ発送、完了した旅程、監禁都市を確定しない。

関連する書簡

フィレモンへの手紙; コロサイの信徒への手紙

確度: やや高い

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

コロサイ 4章7～18節; フィレモン 10～24節

紀元60～62年頃

エフェソの信徒への手紙

エフェソの信徒への手紙は、キリストとの結びつきと、ユダヤ人と異邦人の一致を示す。パウロによる直接の著作、宛先、監禁場所はいずれも議論されている。

関連する書簡

エフェソの信徒への手紙

確度: やや高い

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

エフェソ 1～6章; 3章1節; 6章20～21節

紀元60～62年頃

フィリピの信徒への手紙

フィリピの信徒への手紙は、投獄が福音の前進につながったことを描き、キリストをたたえる賛歌を含む。監禁都市は議論されている。

関連する書簡

フィリピの信徒への手紙

確度: 中程度

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

紀元62～64年頃

テモテへの手紙一; テトスへの手紙

テモテへの手紙一とテトスへの手紙をパウロの直接の書簡と読む伝統的な見方では、両書の状況は使徒言行録後の働き——テモテがエフェソに、テトスがクレタ島におり、ニコポリスで越冬する計画——を示唆する。使徒言行録は釈放も旅程も語らず、ニコポリスは執筆地として示されていない。

関連する書簡

テモテへの手紙一; テトスへの手紙

確度: 中程度

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

一テモテ 1章3節; テトス 1章5節; 3章12節

紀元64～67年頃

テモテへの手紙二

テモテへの手紙二は、ローマと結び付けられ、犯罪者のようにつながれた囚われの語り手を描く。パウロによる直接の著作と、使徒言行録後の最後の投獄という再構成は議論されている。

関連する書簡

テモテへの手紙二

確度: やや高い

年代や年表上の位置は歴史的な再構成です。確度は順序の中での位置づけを示し、出来事が起きたかどうかを示すものではありません。

聖書の参照箇所

二テモテ 1章8節、15～17節; 2章9節; 4章6～18節

ダウンロードした教材はインターネットに接続せずに使えます。外部の出典リンクを開くには接続が必要です。

<https://paulineletters.com/ja/explore/resources/journeys-and-letters>

© Pauline Letters · CC BY 4.0 · MIT

ダウンロードできる体験型教材の独自コードはMITライセンスで提供します。本文と画像には、それぞれ表示された再利用条件が適用されます。

▶ 再利用の条件